

今週（11月9日から11月13日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積み期終盤を迎えたこともあって概ね堅調な地合いとなった。無担保コールO/Nは、邦銀を中心に▲0.050～▲0.015%のレンジでの出会いとなった。積み最終日となる13日には一部で取りあがる先が見られ、▲0.040～▲0.015%での出会いとなった。加重平均レートは概ね▲0.03%程度での推移となった。ターム物に関しては目立った出会いは見られなかった。

11日には3市場合同BCP訓練の一環として、固定金利方式による全店共通担保資金供給オペ(O/N物)が1,000億円オフアーされ、48億円の落札結果となった。

また、10日に行われた通常会合において「地域金融強化のための特別当座預金制度」を導入する方針が決定された。制度の概要としては「地域経済を支えながら経営基盤強化に取り組んだ地域金融機関に対し、該当地域金融機関が保有する日銀当座預金に上乗せ金利（年+0.1%）を支払う」もので、3年間（2020～22年度）の時限措置となっている。

●レポ市場

今週のGC T/Nは、短国・利国の入札回数が多く業者勢の資金調達意欲が高かったことから、前週より小幅にレートが上昇して推移した。週初9日のT/Nは短国6M物の入札があったことから▲0.085～▲0.075%の出会い、翌10日のT/Nは横ばい圏で推移した。翌11日のT/Nは国債買入オペが入ったことで▲0.09～▲0.075%出会いと小幅低下したものの、翌12日のT/Nは5年債入札もあって▲0.085～▲0.075%出会い。13日のT/Nも、短国3M物の入札を控えて▲0.08～▲0.075%の出会いとレートを切り上げての推移となった。

SCについては、2y413～418、5y140～145、10y354～359、20y171～174、30y65～68、40y13などカレント銘柄を中心にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は需給の改善傾向が見られた。短国買入オペは前回から2回の入札が行われたものの、オフアー額が15,000億円（先週と同額）にとどまったが、このことによって需給が崩れることもなく、全般的に堅調な推移が続いた。3M物は▲0.100%近辺、6M物は▲0.115～▲0.110%出会いと堅調な推移となり、1Y物は閑散な中、▲0.140%近辺と横ばい圏で推移した。

9日に実施された6M物の入札は、WI取引において▲0.113～▲0.109%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.1128%、按分落札利回▲0.1068%と、順調な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.113～▲0.109%出会いと入札と同水準で推移した。

11日に実施された短国買入オペは、前回と同額の15,000億円でオフアーされた。市場予想より若干少なかったこともあり、平均落札利回較差+0.005%、按分落札利回較差+0.003%となった。

13日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.093～▲0.090%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.0938%、按分落札利回▲0.0912%と、順調な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットではショートカバーが入ったのか、▲0.110%出会いとやや強含んで推移した。

●CP市場

今週のCP市場は 償還総額6,600億円程度対して、発行総額5,700億円程度と償還超となった。投資家の需要は引き続き強く、0%以下でまとまった額を調達するケースが散見された。市場残高は先週に引き続き24兆円台前半での推移となった。発行レートについては、適格担保銘柄は概ねマイナス圏となっており、1,000億円程度の大型発行を行った場合でも0%になるなど、足元の発行が少ないことから投資家の積極的な買い姿勢が継続している。

10日にはCP等買入オペが、当初予定額から500億円減額され、5,500億円でオフアーされた。オフアー額は減額となったものの、業者の在庫が少なかったこともあり、応募額7,033億円（前回10,604億円）、按分レート▲0.055%（同▲0.033%）、平均レート▲0.034%（同▲0.025%）と按分・平均共に低下する結果となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
11/9（月）	24,839.84	0.015	103.33	△ 0.030	△ 0.085	4,842,200
11/10（火）	24,905.59	0.030	105.10	△ 0.034	△ 0.085	4,829,100
11/11（水）	25,349.60	0.035	105.14	△ 0.034	△ 0.090	4,821,900
11/12（木）	25,520.88	0.025	105.28	△ 0.034	△ 0.087	4,859,000
11/13（金）	25,385.87	0.020	104.92	△ 0.030	△ 0.081	4,836,900

来週（11月16日から11月20日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
11/16 (月)	道東地域金融経済懇談会において政井審議委員講演 7-9月期のGDP 1次速報(内閣府 8:50) 9月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)	流動性供給 5,000億円 11/17発行			
11/17 (火)		国有林野借入 859億円 11/25借入			9月の米企業在庫 10月の米小売売上高 10月の米鉱工業生産・設備稼働率
11/18 (水)	10月の貿易統計(財務省 8:50)	20Y 12,000億円 11/19発行			10月の米住宅着工件数 10月のユーロ圏消費者物価指数改定値 10月の英消費者物価指数
11/19 (木)		TB1Y 35,000億円 11/20発行	交付税借入 11,000億円 11/30借入		10月の米中古住宅販売
11/20 (金)	10月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 75,500億円 11/24発行	流動性供給 4,000億円 11/24発行		

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
11/16 (月)	800	▲ 32,900	▲ 32,100	CP買入 国債補完	▲ 1,600 300		▲ 1,300	▲ 33,400	TB3M発行▲75500償還42200 個人向け3・5・10Y発行▲3800 償還400
11/17 (火)	0	▲ 4,000	▲ 4,000				0	▲ 4,000	流動性供給▲5000
11/18 (水)	0	▲ 1,000	▲ 1,000	全店共通	▲ 1,600		▲ 1,600	▲ 2,600	労働保険料揚げ
11/19 (木)	▲ 1,000	▲ 3,000	▲ 4,000				0	▲ 4,000	20Y発行▲12000 交付税借入▲11000償還21000
11/20 (金)	▲ 2,000	▲ 11,000	▲ 13,000	社債買入		2,000	2,000	▲ 11,000	TB1Y発行▲35000償還11700 変動15Y償還5100 エネルギー対策借入▲6500期日6500
週 間 合 計	▲ 2,200	▲ 51,900	▲ 54,100	—	▲ 2,900	2,000	▲ 900	▲ 55,000	

11/16は日銀予想、11/17以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、新しい積み期間を迎えることで、ビッドサイドの動向が注目される。無担保コールO/N物加重平均レートは若干低下すると予想する。レボ市場は、GC T/Nは新積み期に入り、両サイド共に様子を見ながらの展開となることが想定され、▲0.11～▲0.07%程度での推移が予想される。短国市場は、19日に1Y物、20日に3M物の入札が実施予定となっている。短国の需給が改善傾向にある中、レート水準を含め、市場動向が注目される。また、17日に予定されている短国買入オペのオファー額にも注目したい。CP市場は、良好な発行環境が継続している中、発行レートの動向に注目したい。

主要なイベントは、国内では16日に7-9月期のGDP1次速報、20日に10月の全国消費者物価指数、海外では18日に10月の英消費者物価指数などが予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くことがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入